



平成27年度小笠原村立小笠原小学校

# 学校だより

5月号 (H27.5.1)

TEL 04998-2-2012

校長 西澤 盛和

## 児童の安全確保

校長 西澤 盛和

4月の全体保護者会でお知らせしましたように、3月小笠原村議会定例会にて小学校の施設・設備の安全性が取り上げられました。それに先立ち、学校では1月19日に起きました体育館倉庫の換気扇コンデンサ発火事故の翌々日1月21日に、ときわ電気が小学校・中学校・体育館の電気設備をすべて点検調査しています。また、4月1日には内地から専門家が来て、壁・梁のひび割れ等の耐震調査をしました。村教委としては、今年度中に、校舎内の老朽化した電気設備を一新し、ひび割れ等を補修する計画ということです。工事日程が正式に決まりましたら、改めてご連絡いたします。保護者の皆様、地域の皆様にはご心配をおかけしますが、村教委と連携を取りながら出来るだけ早急に対応していきますので、どうかご理解とご協力をよろしくお願いします。

施設・設備のハード面だけでなく、安全管理の組織体制や安全指導というソフト面でも、万全を期していきたいと考えます。今年度は阪神淡路大震災からちょうど20年目となります。東日本大震災からは4年目、多くの命を奪った自然災害の恐ろしさを改めて感じます。今年度、生活指導の重点項目に津波対応を追加し、有事の際には迅速に的確に児童の安全を確保できるように学校全体で務めていきます。

気象庁のWEBページには「震源が陸地に近いと津波警報が津波の襲来間に間に合わないことがあります。強い揺れや弱くても長い揺れがあったらすぐに避難を開始しましょう。」とあります。ここ父島では、津波警報がなくても「地震＝津波」「地震があったらすぐ海から（高い所へ）逃げる」ということを子供たちの常識にする必要があります。学校では「地震＝津波」の警戒感を持たせるために地震・津波避難訓練として津波警報がなくても「地震があったらすぐ海から（高い所へ）逃げる」という行動がとれるように指導しています。

今年度は、5月の避難訓練では集団下校を、6月の避難訓練では引き取り訓練を実施します。引き取り訓練は大津波警報が出た場合を想定し、二次避難場所の大神山に避難してからの引き渡しとなります。6月6日(土)の学校公開の時に設定し、避難ルートを保護者の皆様とともに確認する予定です。暑い中の移動となり大変だとは思いますが、皆様のご理解とご協力をどうかよろしくお願いします。

5月の行事予定			16	土	
1	金	村学力調査(2~6年) ㊦ヨーグルト	17	日	
2	土		18	月	全校朝会 体力テスト(始)
3	日	憲法記念日・こども祭り	19	火	
4	月	みどりの日	20	水	音楽朝会
5	火	こどもの日	21	木	補食パン
6	水	振替休日	22	金	体力テスト(終) 家庭訪問(終) SC
7	木	家庭訪問(始)~22	23	土	
8	金	クラブ発足 SC	24	日	
9	土		25	月	全校朝会 マナー週間(始)
10	日		26	火	ヤゴとり(3年)
11	月	全校朝会 図書室整備 10:30~	27	水	ゲーム集会 芝生の日 わくスポ ㊦ヨーグルト飲料
12	火	遠足(3・4年)	28	木	プール清掃(6年)
13	水	5月誕生集会 避難訓練(集団下校)	29	金	マナー週間(終) SC
14	木	心電図検査(1・4年) 芝生の日 わくスポ	30	土	
15	金	㊦ヨーグルト	31	日	

## 「家庭学習のすすめ」 宿題＋自主勉強

### 時間のめやすは

(学年×10+10分)

- ・1年生…20分
- ・2年生…30分
- ・3年生…40分
- ・4年生…50分
- ・5年生…1時間以上
- ・6年生…1時間以上

本校には家庭学習のすすめがあります。時間の目安は左に示した通りです。毎日継続的に学習することによって、学力が向上するとともに、よりよい生活習慣も身に付くと思われま。宿題が受け身的な営みであることに対し、自主勉強はその名の通り自主的・主体的な営みです。自ら机に向かう習慣そのものが意義あるものだと考えます。

「宿題がなければ家庭学習をしない」「宿題が終われば勉強も終わり」という子供ではなく、一日の一定時間は自ら勉強する

子供であってほしいと考えています。その勉強内容は学校の復習というのが一般的なものだと考えます。学校での学習内容をしっかりと理解し定着させることが一番の目的となります。反復練習の重要性が見直されているのはそのためです。学校でも反復練習の時間は取りますが、それだけをしている訳にはいきませんから、どうしても習得が遅れがちな子供には家庭での練習が必要になります。その点をご理解いただき、ご家庭でも励ましていただきながら、学習内容の定着を確実なものにしていきたいと考えます。

学習内容が定着している子供には反復練習ではない学習をぜひしてもらいたいと思います。それがどんな学習であれ、子供自ら取り組む学習であれば、意義深いものであり、大きなよい影響を子供の成長にもたらすことと思います。

「百ます計算」で有名な立命館小学校校長顧問 陰山英男さんは、次のようなことを述べています。そして、目安の時間を設定した家庭学習には批判的です。私としては陰山先生の言わんとすることも理解した上で、それでも目安の時間を集中して家庭学習ができる子供にすることはやはり大切なことと考えています。陰山先生の主張は、勉強をつまらないものにしないうこと、子供の意欲を大事にすることに他ならず、とても重要な真理であり、学校での授業でも大いに気を付けていきたいところです。

●勉強とは集中するトレーニングなんです。ですから、集中せずにダラダラとやっているものは勉強としてとても質の低いもので、勉強とすら呼べないと私は思っています。では集中する勉強とはどんなものか。それはある一定の分量を短い時間でこなすことなのです。

●大人は難しいことをじっくりさせたがります。これは大きな間違い。小学生には“できること”と“もうちょっと頑張ればできること”をどんどんやらせて、集中が途切れる前に終わらせるのが一番。家庭でお子さんがドリルをやっている、思いの外、早く終わったから『そんなに早くできるのなら、もう1枚やりなさい』と言ったことはないですか？ こう言われてしまうと子どもは効率良く勉強を終わらせることは損だと思ってしまう。

●子どもが分からない問題にぶつかったときに、『すぐに答えを教えると自分で考えない子どもになる』という誤解です。誰が、全く解き方の分からない問題を前にしてやる気になりますか？ こまごまと解説やヒントを与えられるよりも、子どもは思うものです。『やり方を教えて』と。教えてしまっているんです。小学生の学習では、基本で特につまずきやすいところは決まっています。分からない土台の上に、いくら学習を積み上げていっても効果はありません。大人は難しい問題が解けると『よく頑張ったね』と褒めますが、次に似たような問題が出てきてもその状況では解けません。解き方を教わって問題を解き、また次に同じ問題を解く。3回も繰り返せばさっと解けるようになります。こうして『さっと解ける』ようになって、初めて『できるようになった』と言うのです。

(日経Bizアカデミー2013/10/11「子どもを勉強嫌いにさせない家庭学習法 短時間でも集中する習慣が大事」より)

## 読書の習慣 「読書活動の充実」

文部科学省は、読書活動についての基本的な認識として読書の重要性を次のように述べています。

読書は、「考える力」「感じる力」「想像する力」「表す力」「知識等」のいずれにもかかわり、これらの力を育てる上で中核となるものである。特に、すべての活動の基盤ともなる「教養・価値観・感性等」を生涯を通じて身に付けていくために極めて重要なものである。

また、文部科学省は、読書活動の現状と課題としては、こう述べています。

毎日新聞社・社団法人全国学校図書館協議会の「学校読書調査」によれば、小学校から高等学校までの児童生徒の9割前後が「本を読むことは大切である」と認識しているにもかかわらず、子供ばかりでなく全年代にわたってある程度の割合で「全く本を読まない」人が存在するという結果が出ている。このことは子供のみならず、大人にも「読書離れ」の傾向が認められることを示している。特に小学校、中学校、高等学校と進むほど「読む本の冊数」が減るという状況は、学校教育において読書が十分に位置付けられていないこと、大人の「読書離れ」によって身近な大人が読書をする姿を見ることが少ないことなどに起因するものと考えられる。

(H16/2/3 文部科学省「これからの時代に求められる国語力について」より)

課題であった学校教育における読書の位置づけは、この10年間でかなり改善されて、平成24年度 文部科学省「学校図書館の現状に関する調査」では全校一斉の読書活動の割合は、小学校 96.4%、中学校 88.2%、高校 40.8%となっています。ここ父島でも、小学校でも中学校でも高校でも朝読書を実施しています。その中で、私は中学校に学ばなければならないと思うことがあります。それは、「生徒と教師全員が同じ時間に同じ条件で取り組む」という原則にです。大人が読書をする姿を見せることの意義は、私たち大人が思う以上に子供にとって大きいのもかもしれません。小学校でも朝 8:00～8:15 の朝読書の時間には出来る限り教員も子供と一緒に読書を楽しみたいと考えます。

4月の学校日よりでもお伝えしましたが4月23日は「子ども読書の日」です。そして5月12日までの約3週間が「こどもの読書週間」となっています。子供に読書を奨励するとともに、私たち大人が読書をする姿を子供に見せる機会としたいものです。



### 【お願い】図書ボランティアにご参加ください！

図書ボランティアとして参加いただいている保護者の方々、地域の方々のご協力により、昨年度は131回の読み聞かせ、10回の図書室整備を行って頂き、お陰様で子供たちの読書活動が充実したものとなりました。心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

今年度もより多くの皆様にご協力いただき、子供たちの読書活動を更に充実させていきたいと考えています。読み聞かせ、環境整備の活動、どちらかだけのご協力でも結構です。ご都合のつく日だけの参加でも結構です。ぜひ、ご協力くださるようお願い申し上げます。

## 5月の生活目標

担当 増淵 優花

### ・時間や決まりを守ろう

5月の生活指導目標は、「時間やきまりを守ろう」です。小笠原小学校には、「小笠原小学校の約束」というものがあり、学校での「時間」と「きまり」について指導しています。普段から5分前行動、きまりを守るという意識をもって学校生活を送れる姿を目指しています。みんなが安全に楽しく過ごすために、ご家庭でも「時間」と「きまり」を大切に育てる態度の育成にご協力をお願いいたします。

## 5月の安全指導

担当 志村佳成江

- ・安全に自転車に乗ろう
- ・ろくかは右側を静かに歩こう

観光客の増加に伴い、交通量が増えます。安全に自転車に乗るためには、空気が入っているか、ライトが点くか、ブレーキが利くかを確認し、交通ルールを守って乗る必要があります。ご家庭でも常に乗り方の指導と点検をお願いします。

学校では自転車同様、ルールやマナーを守って、廊下は右側を静かに歩くことも指導しています。

## 交通安全教室

生活指導部 清水 智

4月22日水曜日、交通安全教室が行われ、小笠原警察の方々にブレーキなどの整備をすることや歩道では車道側を走ることなど、自転車の安全な乗り方について教えていただきました。また、高学年・低学年に分かれての路上走行では、危険な場所の確認もいたしました。当日は校外生活指導部の保護者の方々に道路上での誘導も行っていただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

5月の春の全国交通安全運動期間では、子どもたちが安全に登校できるように、交差点などで5年生保護者の方々と教員で、安全指導も行います。



## 『おが小の1年生です』

1年担任 板垣 里沙

今年度小笠原小学校に入学した、男の子11名、女の子11名、計22名の1年生です。入学式から約1ヶ月、上級生のお兄さん、お姉さんの温かい歓迎のお陰もあり、学校生活にも、だいぶ慣れてきました。元気いっぱいの1年生、教室の中は毎日にぎやかで、明るい声と笑顔にあふれています。前向きな姿勢が、「先生、今日は何を勉強するの?」「今日は体育で鬼ごっこがやりたいな。」という言葉に表れています。そんな今年の1年生、ちょっぴり恥ずかしがりやな面もあり、今はこどもまつりのオープニングの呼びかけや歌の練習を頑張っているところです。当日は、一人一人の良いところがたくさん発揮できるよう、皆で力を合わせて取り組んでいきます。

